

おはようございます。2022年4月より、第3代渋谷和郎会長の残任期間から数えて就任4年目になりました、第4代会長の野村忠央でございます。第35回年次大会開催に先立ち、一言ご挨拶申し上げます。

本日は年度末のお忙しい中、夜中の関東地方は雨も降っておりましたが、今日は春を感じさせる晴天の中、先生方には和光大学にご参集頂き、誠にありがとうございます。これまで和光大学では2006年の第16回年次大会、2008年の第18回年次大会を開催しましたが、今回、18年ぶり、3回目の開催となった次第です。開催校委員の阿部明子先生、開催校協力委員の奥井裕先生、渋沢優介先生にこの場をお借りして感謝申し上げます。

さておき、他の主要学会が会員減少など厳しい状況を迎えている中、本会は緩やかにですが、発展を続けております。3年前の2023年1月に本会が日本学術会議協力学術研究団体に指定されたことは周知の通りですが、その甲斐もあってか、本会は会員の入会が続き、現在150人の大台の会員数を超えた次第です。また、本会が全国学会を歩むための残された重要な要件として、本会学会誌論文のJ-STAGEへのアップ作業、及びDOI（デジタルオブジェクト識別子）の取得作業を鋭意、進めております。広報委員の村岡宗一郎先生、齋藤章吾先生のご尽力により、ほぼ半分の第15号から第24号までのデータをJ-STAGEに掲載し終えました。昨今、英語教育学を含むAPA方式等でもDOI記載が求められることが増えて参りましたので、先生方が本会学会誌の論文を引用される際にはJ-STAGEに記載されているDOIをぜひご活用下さい。

また、学会誌『日本英語英文学』の作成を賛助会員の開拓社さんをお願いして早、2年目になりました。昨年の大会ではお手元に34号は届いていなかったと記憶しておりますが、本年度は厳しい編集日程であったにもかかわらず、力強い論考13本が掲載された学会誌35号が本日の大会前にみなさまのお手元に届いたことと存じます。投稿者、編集委員、開拓社出版部の川田賢様に改めて感謝申し上げます。

本題に戻りまして、本日の第35回年次大会では英米文学・英米文化分野の特別講演が1件、研究発表が3室に分かれ、英米文学が3件、英語教育学が1件、英語学が6件の計10件の発表が予定されております。大会当日に至るまで大会準備にご尽力下さった大会運営委員会の川崎修一委員長、関田誠副委員長、大会運営委員の先生方、及び事務局・会計局・広報委員の先生方に記して感謝申し上げます。本日は当日会員を含め、60名以上の参加者が予定されております。司会者、発表者、会員の先生方にはどうぞよろしくお願い致します。

最後に、本会は前身の八王子英文学研究会が設立された 1990 年から数えて、本年度、めでたく設立 35 周年を迎えました。記念事業として、5 年前 2020 年に賛助会員 DTP 出版から刊行された 30 周年記念刊行物『今さら聞けない英語学・英語教育学・英米文学』を一般公開した次第です。しかし、ご存知の通り、大学も学界も厳しい時代を迎えております。ですが、本会は 40 周年に向けて、会員、役員のみならずと共に関展していきたいと考えております。先生方におかれましては、学会発表、学会誌投稿、学会運営等でのご協力方、お願い申し上げます。次第です。

以上をもちまして、大会のご挨拶に代えさせていただきます。本日は最後までどうぞよろしくお願い致します。

2026 年 3 月 7 日 (土)

日本英語英文学会長 野村 忠央